

水族館月報

No. 176

1967年4月

4月の入場者数

一 般		団 体		有料合計	特別観覧
大人	小人	大人	小人		
66,988	3,798	15,979	2,010	88,775	452

前年度比	1966	1967	増 減
入場者数	91,703	89,227	-2,476

水族館記事

- ◎ 1日 3月末日で定年退官された市川衛教授に代って、森下正明教授が所長に就任された。
- ◎ 8日 大阪の熱帯魚店より、バタフライ・フィッシュ *Pantodon buchholzi* (全長6cm) 3個体と、アフリカンナイフ・フィッシュ *Xenomystus nigri* (12~15cm) 5個体が入槽。TF-3へ展示した。前者は常に水面直下に浮んでいるので、イトメや魚肉のような沈む餌は食わず、試みにボウフラを与えてみたところ、これを良く捕食している。
- ◎ 11日 地下貯水槽R-Cを大清掃し、本日より、G(タカアシガニ)水槽を冷水循環にきりかえた。
- ◎ 13日 C水槽のコモンハタは全長20cmに成長したので、同槽を清掃した機会に、J水槽へ移槽。
- ◎ 同日 千葉大学深山幹夫教授・東海区水産研究所竹村嘉夫・倉田博両技官は潮間帯の動物生態撮影のため来館。
- ◎ 14日 水温が上がってきたので(本日の自然海水々温 18.5 °C)、第3水槽室各槽の温水循環を止め、J・K両水槽は第3濾過槽よりの単独循環にきりかえた。
- ◎ 16日 堺浦より巨大なウミウシ(伸長時の全長42cm)が入槽。瀬戸ガ瀬でエビ網にかかったもので、外套膜の周辺部はミカドウミウシによく似ているが、背面は濃い橙色である。No.1水槽に展示中。

- Ⓒ 20日 生物映画社吉田六郎所来館。今月末まで滞在し、腔腸動物、後鰓類などを撮影した。
- Ⓒ 同日 読売テレビより4名取材に来館。昨夏当地で取材、放映して好評だったルポルタージュ「海の博物館が荒らされる」(白浜の海の自然保護問題)のフィルムを所内で鑑賞した。
- Ⓒ 21日 再び塚浦より、ミカドウミウシ類似の巨大種が入槽。
今回の個体はやゝ小さく、全長34cm。
- Ⓒ 22日 下関水産大学校増殖科学生20名見学に来館。
- Ⓒ 23日 北浜の地引網より、ウミテング(全長7cm)が入る。この魚は、例年1~2個体が地引網にかかるが、いずれも入網時のスレがひどく、2,3日で死亡するのが常であった。本日入槽の個体は、体色がいちじるしく黒く、月末現在就餌は未確認であるが、元気で、№28-7水槽に展示中。
- Ⓒ 25日 北浜の波打際で、カラスキセワタガイ2個体を採集した。このウミウシは昼間は砂泥中にもぐる習性があり、当館周辺での採集例は極めて少ないが、この時は曇天の夕方であったため砂上に出ていたものらしい。
- Ⓒ 27日 搭島東水道でscuba採集中、珍らしくマツカサウオの幼魚(全長3.5cm)を採捕し、T-8水槽に収容した。
- Ⓒ 28日 №28水槽内装バット群の動物を整理し、展示効果がやや少ないカニ類・巻貝類に替えてウミウシ類主体の展示とした。

Ⓒ 4月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
12日午後	番所崎周辺	磯採集	2	ウミウシ類
14日〃	南浜防波堤附近	〃	2	タイドプールの小魚
17日〃	動物園下の磯	〃	1	エビ・カニ類
23日〃	北浜沖暗礁	scuba	1	小型磯魚
25日〃	島島	磯採集	3	潮間帯動物一般
〃〃	加納島南側	scuba	1	ヤギ類
26日〃	南浜防波堤附近	磯採集	2	ウミウシ類
27日〃	搭島周辺	scuba	2	チョウチョウウオ類

上記のほかに、北浜での地引網便乗採集4回及び、外来研究者より潮間帯動物の受贈2回。

Ⓒ 主な採集動物名(☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物)

無脊椎動物： ザラカイメン、アカシマモエビ、オオアカハラ、ミズヒキガニ、ミスガイ、カラスキセワタガイ、ダイダイウミウシ、マダラウミウシ、フタイロニシキウミウシ、☆チシオウミウシ、サメジマオトメウミウシ、サンゴハナガサウミウシ、ニシキヒザラガイ、クロチョウガイ、☆タカノハガイ、ハナイカ、ウデナガクモヒトデ ヒメウニ、マダラウニ、ムラサキグミモドキ、ベニボヤ。

魚 類 : マツカサウオ、ギンユゴイ、☆ゴマフエダイ、ホシギンボ、コケギンボ、ミミズハゼ、セジロハゼ、キヌバリ、カゴカキダイ、シラコダイ、ゴマチョウチョウウオ、ハナミノカサゴ、ウミテング。

2. 購 入

雑賀崎一本釣漁師からの入槽は例年よりやや少なく、堺浦よりエビ網の獲物を3回自動車輸送した。また、6日より江川港のエビ漕ぎ網漁が始まり、砂地の動物が多数入りだした。

◎ 主な購入動物名

無脊椎動物 : キサンゴ、☆フタリビワガライシ、シャコ、アカホシヤドカリ、イボアシヤドカリ、アサヒガニ、トゲナシビワガニ、キメンガニ、トラフカラッパ、ヒシガニ、ジャンメガザミ、ベニホシマンジュウガニ、ウラシマガイ、キンチャクガイ、ツキヒガイ、ミミイカ、カミナリイカ、テナガダコ。

魚 類 : サカタザメ、メクラアナゴ、アミウツボ、タカクラタツ、エビスダイ、イトウダイ、アイブリ、イトヨリダイ、タマガシラ、チカメキントキ、シマオコゼ、キツネダイ、キンチャクダイ、☆タキゲンロクダイ、シマフグ、アヤマカサゴ、ホウボウ。

(以下外地産) ☆バタフライフィッシュ、☆アフリカンナイフフィッシュ、フエヤッコダイ、ソメワケヤッコ、☆ヤリカタギ。

◎ 飼育概況

今春は例年より水温の上昇が早く、中旬より、A・E・G・Hの各槽に白点病が発生したが、G水槽をのぞき、いずれも早期治療が奏効し、駆除できた。G水槽のエビスダイ・チカメキントキは、タカアシガニと混養しているため、薬液処置(ネグボン-硫酸銅浴)ができず、第2期症状に至ったが、11日より冷水循環にきりかえ、水温を14℃に下げたので、病状は進行していない。

ウミウシ類のコレクションは、久々に(37年の天皇行幸時以来)20種を越え、また、無脊椎動物の総種類数も341種となって、これまでの記録を更新した。

4月30日現在、飼育中の動物は、総計573種 4694個体以上で、その内訳は次の通り。

このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は540種 4450個体以上。

カイメン類	5種	11個体	ゴカイ類	10種	65個体	タコ類	5種	6個体
ヒドロ虫類	4種	37群	フジボ・カメノデ類	5種	108	ウミシダ類	6種	13
ハチクラゲ類	1種	2個体	シャコ類	2種	5	ヒトデ類	9種	139
ウミトサカ類	4種	12	エビ類	18種	244	クモヒトデ類	9種	40
ヤギ類	10種	67	ヤドカリ類	12種	17	ウニ類	14種	143
ウミエラ類	1種	7	カニ類	51種	229	ナマコ類	8種	33
イソギンチャク類	11種	586	カブトガニ類	1種	6	ホヤ類	5種	92
イシサンゴ類	17種	107	ヒザラガイ類	4種	8	軟骨魚類	10種	54
スナギンチャク類	3種	3	巻貝類	62種	457	硬骨魚類	219種	1524
ツノサンゴ類	2種	4	ウミウシ類	24種	74	(内・淡水魚	27種	147
ハマギンチャク類	1種	8	二枚貝類	33種	462	は虫類	3種	20
			イカ類	4種	11			

資 料

4 月 の 気 象 (午前 9 時 観 測)

第 1 水 槽 室 (水 温 , 比 重 は 16 水 槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 : 10	4	0	6
室 温 (°C)	$\frac{13.8 \sim 19.3}{16.8}$	$\frac{14.9 \sim 18.0}{16.5}$	$\frac{15.7 \sim 20.8}{17.9}$
水 温 (°C)	$\frac{15.8 \sim 18.4}{17.0}$	$\frac{17.0 \sim 19.1}{17.8}$	$\frac{17.8 \sim 19.6}{18.5}$
比 重 (15 °C)	$\frac{24.42 \sim 25.54}{24.98}$	$\frac{24.63 \sim 25.15}{24.89}$	$\frac{23.77 \sim 25.46}{24.61}$

第 3 水 槽 室 (水 温)

H 水 槽 (°C)	$\frac{19.8 \sim 20.3}{20.1}$	$\frac{19.2 \sim 20.7}{20.2}$	$\frac{18.5 \sim 19.8}{19.3}$
T-8 水 槽 (°C)	$\frac{16.6 \sim 18.5}{17.4}$	$\frac{17.2 \sim 19.6}{18.2}$	$\frac{18.3 \sim 19.8}{18.9}$

海 水 取 入 口

水 温 (°C)	$\frac{16.80 \sim 19.90}{17.90}$	$\frac{17.00 \sim 19.80}{18.47}$	$\frac{18.80 \sim 20.30}{19.39}$
比 重 (15 °C)	$\frac{24.69 \sim 25.75}{25.22}$	$\frac{24.64 \sim 25.54}{25.09}$	$\frac{23.96 \sim 25.65}{24.80}$

昭和42年5月15日(第176)

編集兼発行者 森 下 正 明

発 行 所 京都大学瀬戸臨海実験所
和歌山県西牟婁郡白浜町
電話(白浜)2047・3515